レビューシート（令和５年度レビュー対象事業：フォローアップ型）

様式１

ﾚﾋﾞｭｰ項目（事業名）	効果的な説明会の実施による医師の地域偏在の是正（臨床研修病院合同説明会）			部（局）	保健医療部
				所管課	医務課
				担当班	医療人材確保班
				連絡先	078-362-3606
開始年度	平成18年度	終了年度	―	関連計画等	医師確保計画
事業区分	□ 国補助事業　☑ 県単独事業				
実施方法	☑ 直執行　□ 委託　□ 補助　□ その他（　　）			実施主体等	県
事業目的	医師は、臨床研修終了後、当該研修で勤務した病院に就職する可能性が高いため、臨床研修の段階で県内の病院と医学生のマッチングを行う説明会を開催することで、県内医師の総数を確保するとともに、医師の地域偏在を是正する。				
事業概要	県内の各病院が説明ブースを設置し、県内外の医学生が各ブースにて個別相談を行う説明会を開催。				
業務フロー	①臨床研修病院の参加とりまとめ（２月～３月） ②全国医学部へ案内するとともに学生の参加とりまとめ（４月） ③会場内レイアウトの検討、説明会当日の全体運営（６月） ※　臨床研修医と臨床研修病院とのマッチング（８月）				
R5レビュー時の外部委員会意見	・研修医が行ってほしい地域に行っているのかを指標化できないか検討すべきである。 ・研修医にその地域に勤務してもらうためには、生活情報についても見せていく必要がある。その病院で働く先輩医師に話をしてもらうほか、各市の地域おこし協力隊にもPRしてもらってはどうか。 ・へき地勤務を選択した人材の声を横展開することも有効ではないか。				
改善結果（改善状況取組過程）	・「医師確保対策重点推進圏域内病院の翌年度募集定員に対するマッチング率」をアウトカム指標に追加する。 ・参加した学生へのアンケートでは、「臨床研修プログラム・指導体制」「職場の雰囲気」に興味を示していることが分かった。そのため、研修医等の先輩医師から学生に対し勤務環境・生活環境について説明いただいている。 ・へき地病院で勤務する医師についての広報を実施（R7：県広報番組、R8：県広報誌）				

事業に要するコスト

区分		５年度決算額	６年度決算額	７年度当初予算額	８年度当初予算額
事業費①		600 千円	2,408 千円	2,408 千円	2,433 千円
経費内訳	報酬・賃金	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	委託料	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	補助金・交付金	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	貸付金	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	その他	600 千円	2,408 千円	2,408 千円	2,433 千円
（財源内訳）	(国庫)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)
	(特定)	(600千円)	(2,408千円)	(2,408千円)	(2,433千円)
	(起債)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)
	(一般財源)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)
予算額② ※精算補正前の予算を記載		600 千円	2,408 千円	2,408 千円	2,433 千円
執行率((①/②)×100)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
人件費③（a＋b＋c）		従事人員 0.1人 825 千円	従事人員 0.1人 862 千円	従事人員 0.1人 899 千円	従事人員 0.1人 944 千円
	職員給与費 a	716 千円	739 千円	790 千円	821 千円
	賞与引当金繰入額 b	59 千円	62 千円	59 千円	62 千円
	退職手当引当金繰入額 c	50 千円	61 千円	50 千円	61 千円
総コスト(①＋③)		1,425 千円	3,270 千円	3,307 千円	3,377 千円

レビューシート（令和５年度レビュー対象事業：フォローアップ型）

様式１

評価指標	指標名	区分	５年度実績	６年度実績	７年度見込	８年度目標	最終目標【年度】
	成果指標（アウトカム指標①） 翌年度募集定員に対するﾏｯﾁﾝｸﾞ率（医師確保対策重点推進圏域（北播磨、播磨姫路、但馬、丹波、淡路））	目標	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%【各年度】
		実績（見込）	98.0%	99.0%	92.2%	96.4%	
		（単位当たりコスト）	(1,454 千円)	(3,303 千円)	(3,587 千円)	(3,503 千円)	
		達成率（見込）	98.0%	99.0%	(92.2%)	(96.4%)	
	成果指標（アウトカム指標②） 人口10万対医師数 ※隔年調査（医師確保対策重点推進圏域（北播磨、播磨姫路、但馬、丹波、淡路））	目標	262.1	267.4	267.4	267.4	267【年度】
		実績（見込）	233.7	247.4	247.4		
		（単位当たりコスト）	(6 千円)	(13 千円)	(13 千円)	--	
		達成率（見込）	89.2%	92.5%	(92.5%)	(0.0%)	
	成果指標（アウトカム指標③） 人口10万対医師数 ※隔年調査（県全体）	目標	262.1	267.4	267.4	267.4	285【年度】
		実績（見込）	276.4	285.3	285.3		
		（単位当たりコスト）	(5 千円)	(11 千円)	(12 千円)	--	
		達成率（見込）	105.5%	106.7%	(106.7%)	(0.0%)	
	活動指標（アウトプット指標①） 説明会の参加学生数	目標	120	120	120	120	120【各年度】
		実績（見込）	132	83	(120)	(137)	
		（単位当たりコスト）	(11 千円)	(39 千円)	(28 千円)	(25 千円)	
		達成率（見込）	110.0%	69.2%	(100.0%)	(114.2%)	
	活動指標（アウトプット指標②） 説明会の参加病院数	目標	40	39	39	38	38【各年度】
		実績（見込）	36	32	(32)	(29)	
		（単位当たりコスト）	(40 千円)	(102 千円)	(103 千円)	(116 千円)	
		達成率（見込）	90.0%	82.1%	(82.1%)	(76.3%)	
	活動指標（アウトプット指標③）	目標					【年度】
		実績（見込）					
		（単位当たりコスト）	--	--	--	--	
		達成率（見込）	--	--	--	--	
標	終期設定	有（　　）・（無）					
	改善基準						

自己評価	評価の視点	評価	目標に対する達成状況（総合的評価）
	○有効性（評価指標に対する実績） ・県民ニーズを的確に踏まえた事業か ・民間での事業実施は見込めない事業か ・指標・目標設定は適切か ・活動実績は十分か ・想定された成果を達成しているか　など	・参加学生は年々増加傾向にあり、県内の臨床研修定員に対するマッチング率も高水準にあることから、県内の医師確保に寄与している。 ・医師不足地域の人口10万対医師数は全国平均との差が縮小しているが、人口減少による影響が大きいため、引き続き地域偏在是正に向けて取り組む必要がある。	B：ほぼ満足のいく実施状況 ・県内外の医学生が県内の病院の指導医や先輩医師からの説明を効率よく聞くことができるなど満足度の高い内容となっている。 ・一方、医師確保対策重点推進圏域内病院のマッチング率が下降傾向にあり、医師の地域偏在の是正に向け、説明会の開催方法・内容等について検討が必要。
	○効率性（最小のコストで最大の効果） ・業務改革に取り組んでいるか ・コスト削減の工夫を行っているか ・ICTや民間活力は活用しているか ・受益者負担は適正か ・財源確保の工夫は行っているか　など	・説明会時に参加病院と学生に対しアンケートを取り、アンケートの意見について翌年以降の説明会で改善させるなど、ニーズに応じた説明会運営を行っている。 ・県と参加病院との経費負担を1：1にしており、参加病院から一定金額を徴収しているが、民間事業者による同様のイベントに比べてかなり安価となっている。	

課題・今後の方向性

☑ 改善　□ 他事業と統合　□ その他

説明：医師不足地域内にある病院のマッチング率向上を図るため、学生が研修先を選ぶ際に重視する項目（プログラム内容、指導体制、職場環境）を効果的に発信できる内容とするため、開催方法等を検討する。

外部委員会意見

・R5年度レビューで指摘された事項については、新たなアウトカム指標の設定や勤務環境・生活環境情報の発信、へき地勤務医の広報など、一定の改善が図られている点は評価できる。
・一方で、県全体の医師数は目標を達成しているものの、医師確保対策重点推進圏域における医師数及びマッチング率は依然として目標未達であり、本事業の主目的である地域偏在の是正効果は限定的である。
・学生が重視する「研修プログラム・指導体制」「職場の雰囲気」はアンケートで把握されているが、説明会参加が実際の地域選択・定着につながったかは検証されていないので、説明会参加学生のうち重点圏域病院へマッチング・定着した割合を追跡する指標を導入し、事業効果を直接測定できないか。
・医学生に占める女性割合の高まりや医師の働き方改革の進展により、研修先選択では勤務環境・両立支援（当直体制、育休取得実績、女性医師のキャリア事例等）が一層重視される。重点圏域病院のこれらの情報を積極的に発信することは、偏在是正の観点からも有効である。
・民間事業者の合同説明会運営やオンライン開催の知見を活用し、ハイブリッド開催等により県外・遠方の学生との接触機会を拡大するとともに、重点圏域病院への重点支援の検討が必要。